

神奈川県国民春闘共闘会議 総会・旗開き開催！

神奈川県国民春闘共闘会議は、神奈川労連や国労神奈川地区本部、神障教組、浜高教、横浜港湾労協、教職員連絡会、県央地区春闘共闘会議が結集して構成しています。

1月18日に総会と旗開きを開催し、14組織から16人が参加しました。山田事務局長が県春闘共闘としての春闘方針案や決算・予算、申し合わせ事項、役員体制を報告・提案し、監査報告をユーコープ労組の安部さんが行いました。討論の後に、すべての議案は拍手で確認されました。

総会と旗開きでは、参加者全員に職場の状況などを発言してもらい、なかなか普段はわからない実情なども話され、有意義な交流がされました。いくつか特徴的な発言を紹介します。

【国労神奈川地区本部】

組合員数は、最高時に比べて大きく減少しているが、それでも組織拡大を頑張っている仲間を迎えている。手当をすべてなくす策動があり、賃金水準も低いことから離職率が高い。春闘で賃上げを求めていく。

安全を軽視した「合理化」が強行されている。駅によっては運営全体が委託されている。ワンマン運転も進めており、県内路線にも導入されようとしている。

【ユーコープ労組】

23秋闘が妥結していない。初めてストを実施した。理事会はまったく要求に応えようとしていない。春闘にむけて、団結の強化をはかって、団交参加者を増やし、現場の組合員が自らの言葉で訴えるようとりくみをしていきたい。

【教職員連絡会】

教職員が足りない、この1~2年で特に大変になってきた。年度当初から教員が配置できない事態。教育実習を受けた半数くらいが、(大変さに)教員になることをあきらめる。60歳以上の教員などに無理をいって頼んで継続してもらっている状況。中途退職も増え続け、年間で退職する教員のうち、定年は3~4割くらい。

【浜高教】

横浜の教員試験の受験者が2016年には4千人だったが、23年は2500人を割った。ブラックな職場・労働条件が知られてきたのが原因の一つ。ある地方の教員試験の倍率は1.1倍。一方で、臨任として現場で働いている人は、忙しすぎて試験勉強できずに受からない人も多いという矛盾。20代の教員では2%が療養休業、多くがメンタル。

再任用で働かない人が増えている。教員に「残業」の感覚がないことも問題。

【建設労連】

能登半島地震について、全建総連の担当者が直ちに自治体要請を行い、木造の仮設住宅などの支援をこれから行う。

インボイスとの関係で確定申告にむけて、相当相談が入ってくることが予測される。パー券の脱税や消費税の還付など組合員は怒っており、運動を強めたい。

【自治労連】

技術者は、民間の方が賃金が高いので公務に入ってこない。指定管理者についてのとりくみも必要。原資が無くて賃上げできない状況。光熱費は補填しているが、人件費は出ない。そうした中でも関連職場の組合は運動を強め、要求を前進させている。

【湘南労連】

春闘を「みんなの力でやっぺいこう」と提起する。一つでも良いから行動への参加を呼びかける。中立組合への訪問行動を4年ぶりに実施したい。

藤沢市長選挙のとりくみを相談している。決まったら支援をお願いしたい。